



報道で紹介された美瑛高校 05

◆令和7年6月8日(R7. 6. 14 びえい新聞)

毎年恒例の全校ヘルシーマラソンボランティアに参加しました。給水やゴールされたランナーにハイタッチするなど3,000人を超えるランナーのサポートに全力で取り組みました。

完走率ほぼ100%の3198人が無事にゴール ヘルシーマラソンで参加者が力走



良好なコンディションの中で選手たちが力走。38回目を迎える美瑛のスポーツイベント「丘のまちびえいヘルシーマラソン2025」が6月8日に開催。今年も道内はもとより全国各地からの参加者が初夏の美瑛の丘を駆け抜けた。大会には、招待選手4人を含む3532人がエントリー。道外では九州や四国など33都道府県から322人の申し込みがあった。

今年もゲストランナーとして増田明美さんが参加。開会式では「大好きな大会でリピーターも多い。距離を数えるより、景色を数えて楽しんで走って。元気にエンジョイ」と呼びかけ。美瑛ク



ロカン少年団の団員たちが「クロカンで培った体力と根性で、諦めずに最後まで走ります」と元気に選手宣誓した。

当日の受付はなく、出場者には事前にゼッケンなどを送付。当日は各種目合わせて3208人が出場しており、ハーフは白金ビルケ、クオーターとワンエイトは陸上競技場前から、選手たちはスタート、陸上競技場のゴールを目指した。会場では、今年も商工会女性部が飲食テントを出店。午前中ではほぼ売り切れと

なる好評を得た。ランニング用具の販売やデイスンターすずらののテントも軒を連ねたほか、キッチンカーも営業。またラスノーブルの試食やアスハラ1のプレゼン企画も用意。白金温泉宿泊券をはじめ豪華景品が用意された抽選会は、後日発送となっている。

美瑛中学校吹奏楽部はスタンドで演奏。選手たちの走りを応援した。美瑛高校の生徒たちもボランティアで参加。ゴールでの誘導やチップ回収、参加賞を手渡すなど選手たち

援を送った。正午近くになると気温が上がりつきたものの、ほぼ100%となる3198人がゴールを駆け抜けた。ハーフマラソン一般男子の総合優勝は帯広市の福島玄太さんで1時間9分39秒、一般女子は旭川市の早崎麻実さんで1時間24分10秒。早崎さんは昨年に次ぐ連覇。なお北海道庁に出向中の美瑛町役場の田野寛之さんは総合2位。39歳以下の部で1位となっている。

大会は事故などもなく無事に終了。一方でコロナ前は5000人以上のエントリーがあった大会も、今年のエントリー数は3532人と昨年より150人ほど減少。美瑛産の農畜産物を使った手作り料理で人気を得ていた前日の交歓会も今年から中止となっている。38回を数え、長く受け継がれ育てられてきた大会だけに盛り上がり、に欠けることのないようお願い。なお各種目の優勝者は左記の通り。町内の各種目上位10位は3面に掲載。